



命とところを守る
市政を!

横浜市会議員 / 看護師・防災士・博士(心身健康科学)

青葉台小・桐蔭・慶応大

田中 ゆき

討議資料

07
2020.3



プロフィール

- 青葉区育ち、青葉台小学校
- 桐蔭学園高等学校 / 桐蔭会(会計)
- 慶應義塾大学商学部 / 体育会ボート部
- 人間総合科学大学大学院
- 日本航空CA(客室乗務員)
- 看護師(病院・企業・学校・保育・地域包括)
- 桐蔭横浜大学保健室
- 衆議院議員江田けんじ秘書
- 立憲民主党
- 所属委員会(常任)健康福祉・医療委員会(特別)基地対策特別委員会

Vol.7 在宅避難の準備を!

<p>1 横浜市で今後30年の間に震度6弱以上の地震が発生する確率 82%</p> <p>近くの小中学校が地域防災拠点に</p>	<p>2 でも、基本は在宅避難</p> <p>限られたスペースの為に自宅に住めない人のみ</p> <p>地域防災拠点 自宅での生活</p>
<p>3 地域の支え合いと防災備蓄が必要</p> <p>防災訓練 防災備蓄</p>	<p>4 自助 共助</p> <p>3日分! 以上</p> <p>地域で" 〇〇町会 防災訓練 助け合う"</p> <p>の推進</p> <p>地域防災力を強化します!</p>



自助・共助の地域防災力を強化!!

横浜市では、今後30年の間に震度6弱以上の地震が発生する確率は82%とされています。大地震発生時には、近くの小中学校に地域防災拠点が開設されます。

域防災拠点は、自宅に住めなくなった人が避難する場所です。自宅での生活が可能であれば、在宅避難が基本となります。在宅避難をするには、最低3日分の水や食料、トイレパック等の備蓄、地域の在宅避難者同士の支え合いが必要です。自助・共助を推進し、地域防災力の強いまちづくりに取り組んで参ります!



防災士として地域防災に関わる中で

私が防災士として、地域防災に関わる中で、防災訓練の参加者が少ない地域や防災備蓄が十分でないご家庭も少なくないことを実感しています。いつ発生するか分からない災害と在宅避難に備えるには、日頃から地域で自助・共助を推進し、防災・減災に努めることが大切です。自助・共助・公助が連携した災害に強いまちづくりに取り組んで参ります！

田中ゆきの地域防災重点施策

- 地域防災の担い手の育成推進
- 地域自主防災活動に対する支援
- 自助・共助を促進する情報提供の充実
- 感電ブレーカー、家具転倒防止器具等の設置補助
- 医療・介護・福祉と連携した要援護者対策の推進
- 地域の実情に合わせた災害時ペット対策の推進

横浜市の想定地震および建物・人的被害の想定

横浜市で今後30年間に震度6弱以上の地震が発生する確率は82%とされています。市の被害想定調査の結果、相模トラフ沿いを震源とする元禄型関東地震の被害が最大となり、死者数が約3,260人、建物被害棟数は148,000棟、避難者数は577,000人に及ぶことなどが予測されています。青葉区では、元禄型地震発生から1日後の避難者数が7,834人と、避難所の収容人数を越える人数が予測されています。

地域防災拠点とは

横浜市では、身近な市立の小・中学校等を指定避難所に指定し、地域防災拠点として防災資機材や食料等を保管するための防災備蓄庫、デジタル移動無線を配備しています。また、飲料水の確保のため、災害用地下給水タンクや緊急給水栓の整備、受水槽や消火栓の活用が進められています。地域防災拠点は、市内1箇所でも震度5強以上の地震を観測した場合に開設されます。青葉区には、41の地域防災拠点があり、そのうち12ヶ所に軽症者の応急医療を行う災害時地域定点診療拠点が開設されます。

地域防災拠点の主な役割

地域防災拠点は、自宅に住めない人が避難する場所です。最低限の水や食料、生活用品や物資が集まります。また、安否情報や避難情報、区役所お知らせなど、情報の拠点となっています。災害時に備えて防災訓練も行われています。積極的に参加しましょう。

在宅避難が基本です

在宅避難とは在宅被災生活のことを言います。避難所（地域防災拠点）のスペースは限られているため、自宅での生活が可能であれば在宅避難が基本となります。プライバシーの確保が難しい避難所より、住み慣れた家で過ごす方が、ストレスも少ないです。在宅避難中に、物資が不足したり、情報が必要な場合は、地域防災拠点に行けば、最低限の物資と安否情報や区役所からのお知らせ等を得ることができます。

在宅避難に備える

自宅の安全対策が、第一です。家の耐震化や家具の転倒防止、感電ブレーカーの設置等に努めましょう。備蓄品の準備は最低3日分（7日分が理想）が必要です。飲料水は、1人1日3ℓ必要です。食料品は調理せずに食べられる缶詰やレトルト食品で、普段食べ慣れたものを備蓄すると良いでしょう。家庭のトイレに設置して使用できるトイレパックは1人1日5個程度必要です。その他、懐中電灯やラジオ、ビニール袋、オムツ等の衛生用品、常備薬など、ご家庭の状況に合わせて準備しましょう。

自助・共助で地域防災力強化

大規模震災時は行政機能が麻痺することも懸念されます。「自らの命は自ら守る」「皆のまちは皆で守る」ために、日頃から家庭や地域で災害に備えることが大切です。また、地域で高齢者や要援護者をサポートできるよう、地域の防災訓練等に参加し、顔の見える関係を築いておきましょう！

「タウンミーティング青葉」開催のお知らせ

地域の課題や身近なお困りごと、市政から国政まで、自由に意見交換できる場です。

- 日時：2020年3月21日（土）10時30分～12時頃
- 場所：桜台30-18 第2桜台ガーデン3階（田中ゆき事務所3階会議室）

*参加ご希望の方は、「お名前・お電話番号・お住いの町名」を、下記の田中ゆき事務所へ電話かFAXでお申し込み下さい。

ふるってご参加ください

